

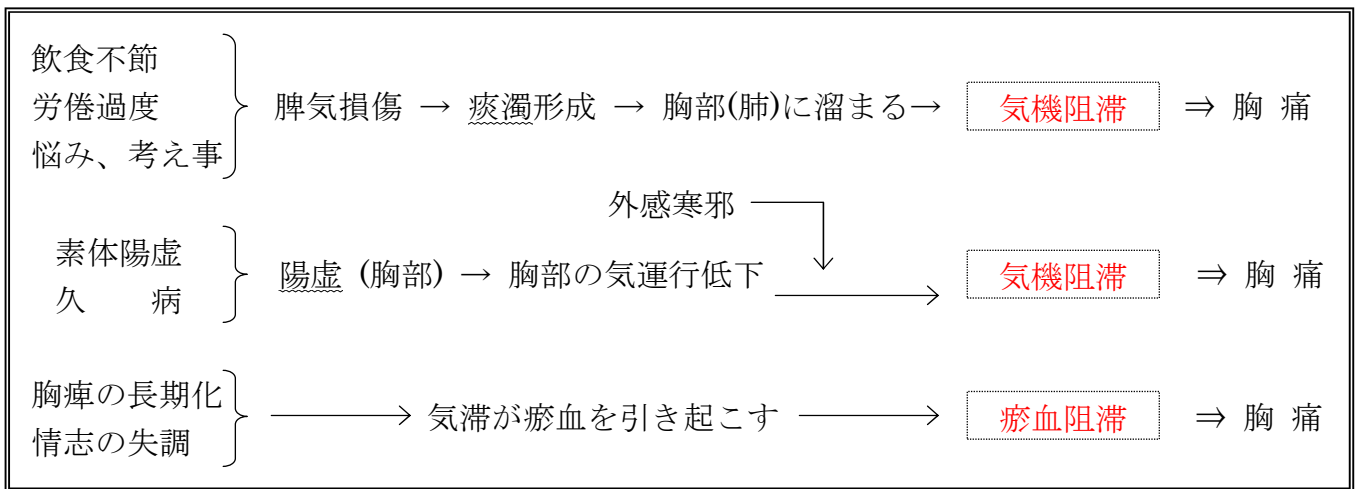
第17講 『胸痛』『肩関節痛』

第1節 『胸痛』

: 東洋医学では「**胸痺**」と呼ぶ。軽ければ胸悶、重いものだと胸痛（絞痛）が起こる。

【分類】 { 実証：**痰濁、瘀血**
虚証：**陽虚**

【病因病機】



【弁証の要点】

(1) 痛みの性質

- [**痰濁**] : 重痛・悶痛、痛みは背部に放散
- [**陽虚**] : 冷痛（教科書では絞痛）、痛みは背部に放散、寒を受けると増悪
- [**瘀血**] : 刺痛、突発的に絞痛が起こることがある、痛みは肩背部に放散する

【症状と処方例】

1. 痰濁

[症状] 胸痛（重痛・悶痛）塞がれるような痛みで背部に放散する。喘気、咳嗽、痰が多く粘稠で白い、食欲不振、倦怠疲労感等を伴うこともある。舌苔白膩、脈濡。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
巨闕	任脈	振奮心陽	前正中線上、臍上6寸
郄門	心包経		大陵穴の上5寸
膻中	任脈	調気止痛	乳頭線を結ぶ線と前正中線の交点
太淵	肺経	除痰化湿	手関節前面横紋の橈側端の陥凹部、動脈拍動部に取る
豊隆	胃経		外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部に取る。

* 背痛には肺兪・心兪を加え拔罐を施してもよい；短気には気海兪、腎兪に施灸

2. 瘀血

[症状] 固定性の胸部刺痛、疼痛は肩背部に放散、夜間に増強、胸悶、息切れ、心悸、唇

は紫色。舌質紫暗、脈細澀または結代。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
心兪	膀胱経	緩解心胸痛	第5・6胸椎棘突起間、外1寸5分
巨闕	任脈		前正中線上、臍上6寸
陰郄	心経		神門穴の上5分、尺側手根屈筋腱の橈側
膻中	任脈	行気活血	乳頭線を結ぶ線と前正中線の交点
膈兪	膀胱兪		第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分

* 瘀象があまりに顕著であれば少商、少衝、中衝に点刺出血

3. 陽虚

[症状] 胸痛、絞痛は背部に放散、寒冷刺激により誘発または増強。胸悶、息切れ、心悸、

顔面蒼白、四肢の冷え、自汗、重症の者では呼吸困難が起こる。舌苔白、脈沈遅。

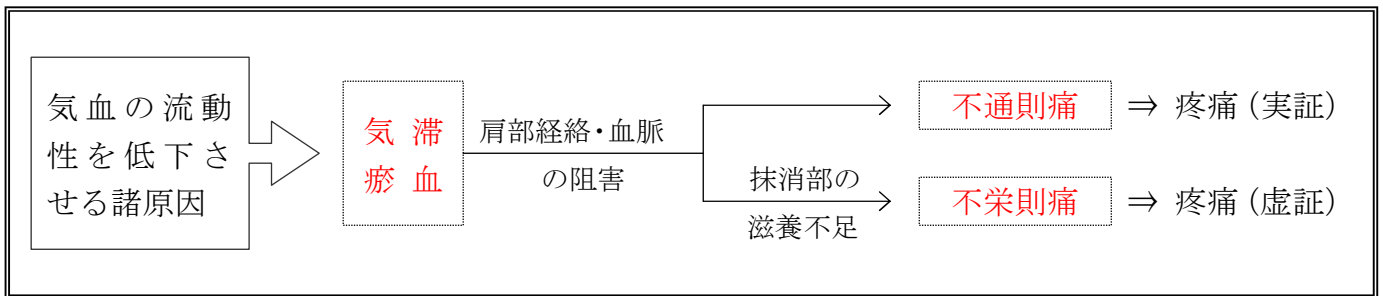
[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
心兪	膀胱経	助心陽 散寒邪	第5・6胸椎棘突起間、外1寸5分
厥陰兪	膀胱経		第4・5胸椎棘突起間、外1寸5分
内関	心包経	活血通絡止痛	大陵穴から曲沢穴に向かい上2寸
通里	心経		神門穴の上1寸、尺側手根屈筋腱の橈側

第2節 『 肩関節痛 』

* 東洋医学ではこれら肩関節痛等運動器系の疾患・症状に対し患部や関連経絡の気血の疎通を目的として治療を行う。

【 病因病機 】



【 処方例 】

* 肩三鍼：肩髃、肩前、肩貞 — 肩部治療の要穴

* 中 平：近年認められた肩関節痛の特効穴（足三里穴の下1寸）

* 肩部に關係する経絡

手の陽明経（肩部前面）：[臂臑、肩髃、合谷]

手の太陽経（肩部後面）：[肩貞、臑兪、天宗、秉風]

手の少陽経（肩部側面）：[臑会、肩髃、外関]

* 五十肩（肩凝・漏肩風・凍結肩）の経験刺法

「 条口透承山法 」

- ① 患者に座位を取らせる。
- ② 長めの鍼で条口穴から承山穴に向け捻転させながら刺入する。
- ③ 得氣を得た状況下で、捻転を行いながら患者に患肢を徐々に挙げ、腰や背中・対側の肩を触るようにつける。 また運動の動作は必ずゆっくりから速く・小さくから大きく行うように注意する。
- ④ 3～5分行う。

<注意>

この刺法は病程が短いものが適応であり、長期間にわたるものや老年・虚弱体質のものには注意が必要である。